美津島町文化財調査報告書 第７集

池ノ浦墳墓

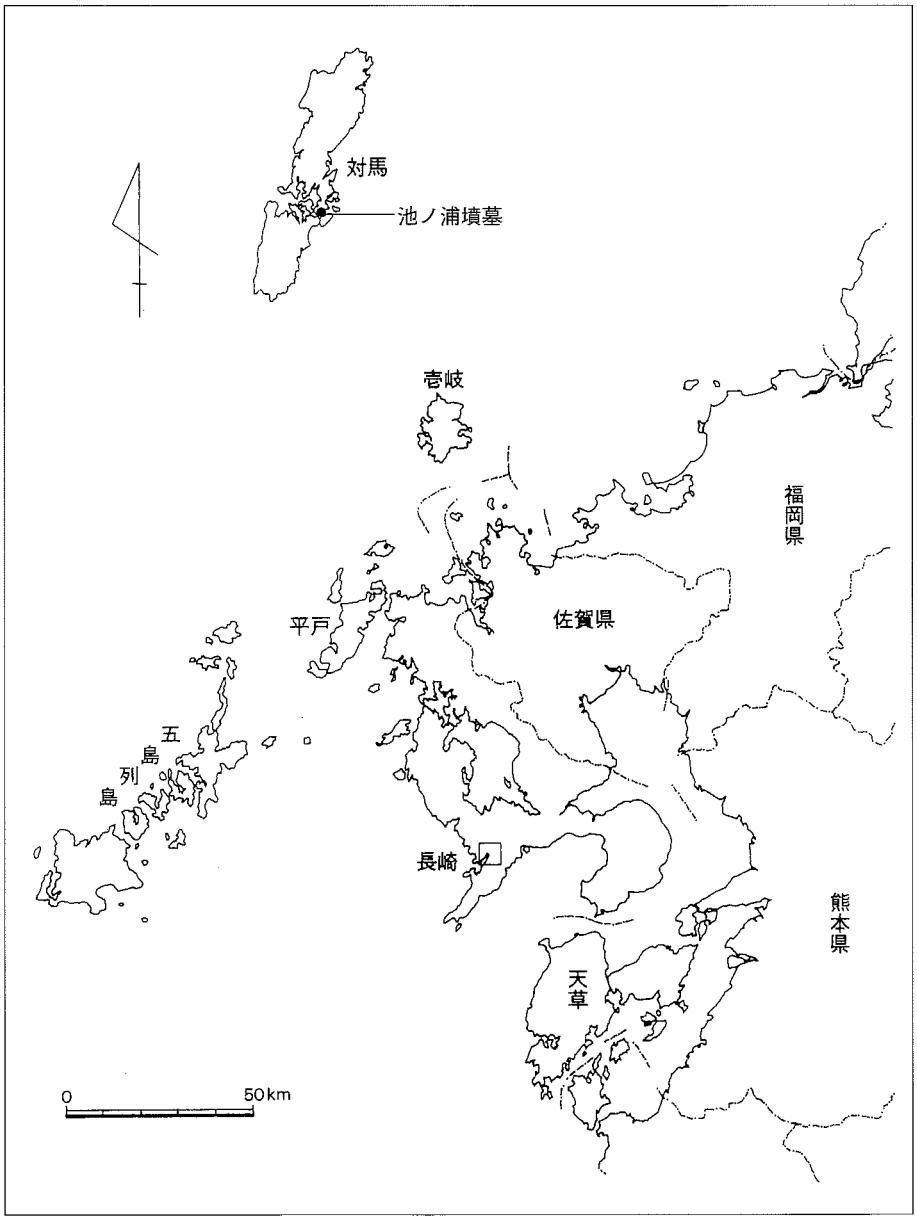
――長崎県下県郡美津島町所在――

1996

美津島町教育委員会

池ノ浦墳墓

——長崎県下県郡美津島町所在——



発刊にあたって

大陸文化の中継地として，本町の歴史と文化を育んできた浅茅湾と三浦湾この両湾の岬や島々には，弥生～古墳時代，中世にかけての墳墓群が散在し，殆どの遺跡から須恵器等が発見され，古くから対馬と大陸との交流が盛んであり，その中心地であったことは想像に難くありません。

今回の調査は，美津島漁港工事に伴い，新たに発見された遺跡の記録保存を目的としたものでありますが，他の遺跡同様岬の先端に所在し，須恵器や青銅製リング等の遺物を出土しており，周辺の調査済みの遺跡や，周知の未調査の遺跡との関連を知るうえでも貴重な資料になるものと期待するものであります。

調査にあたっては，県文化課の安楽勉埋蔵文化財班係長，甲斐田彰文化財保護主事，塩塚浩一文化財調査員に多大なご指導とご助力をいただき，ここに報告の運びとなりましたことに深く感謝申し上げます。

この報告書が学術研究の資料として，また文化財愛護精神の醸成の一助になれば幸いに存じます。

平成８年３月

美津島町教育委員会
教育長　川　本　初　實

例　　言

1．本書は，長崎県下県郡美津島町大字久須保に所在する池ノ浦墳墓の発掘調査報告書である。

2．調査主体は美津島町教育委員会で，調査は美津島町教育委員会と長崎県文化課が担当した。

3．調査は，平成8年8月28日～同年9月22日の期間で実施した。

4．調査関係者は次の通りである。

美津島町教育委員会	教育長	川本初實
（調査担当）	生涯学習係長	内田　洋
〃	主査	大浦日奈子

長崎県文化課

（調査担当）	埋蔵文化財班係長	安楽　勉
〃	文化財保護主事	甲斐田彰
〃	文化財調査員	塩塚浩一

5．本書は分担執筆し，各項の執筆者は本文目次に記した。

6．本書の編集は甲斐田，塩塚による。

本文目次

Ⅰ．調査に至る経緯……1（甲斐田　彰）
Ⅱ．地理的歴史的環境……2（甲斐田　彰）
　1．地理的環境……2
　2．歴史的環境……4
Ⅲ．調査の概要……10（甲斐田　彰）
Ⅳ．遺構……10（甲斐田　彰）
Ⅴ．遺物……13（塩塚　浩一）
　1．遺物概要……13
　2．須恵器……13
　3．陶質土器……19
　4．その他の遺物……22
　5．小結……22
Ⅵ．まとめ……25（甲斐田　彰）

挿図目次

第1図　対馬の地勢と耕地……3
第2図　美津島の遺跡地図……5
第3図　遺跡周辺図……7
第4図　池ノ浦墳墓平面図……11
第5図　須恵器実測図①……15
第6図　須恵器実測図②……17
第7図　須恵器実測図③……18
第8図　陶質土器実測図①……20
第9図　陶質土器実測図②……21
第10図　土器実測図……23
第11図　遺物実測図……24

表　目　次

第１表　美津島町の遺跡一覧①……8
第２表　美津島町の遺跡一覧②……9

図版目次

図版１　遺跡遠景・近景……29
図版２　調査風景・遺構……30
図版３　遺物出土状況……31
図版４　出土遺物①……32
図版５　出土遺物②……33
図版６　出土遺物③……34
図版７　出土遺物④……35
図版８　出土遺物⑤……36

Ⅰ．調査に至る経緯

平成７年３月９日

美津島漁港（修築）町単独事業に伴い，池ノ浦の一部の埋め立てを計画し，池ノ浦に突き出た岬を削平するため現地を調査したところ，礫が集中する区域を確認したということで，長崎県文化課と美津島町港湾漁港係との間で協議が持たれた。その結果，現場の写真による判定や，対岸に池ノ浦鼻遺跡等があることなども考えると，遺跡である可能性が高いため，確認のための分布調査を実施することとした。

平成７年５月８日

長崎県文化課埋蔵文化財班　安楽勉係長・美津島町港湾漁港係　松村善彦課長補佐・美津島町教育委員会　内田洋生涯学習係長により分布調査が行われた。その結果，岬の突端部の約60m²の範囲に礫の広がりが見られ，須恵器片も表面に散乱しており，二次的な破壊を受けてはいるが古墳時代の遺跡であることが確認された。しかし，町の計画は進行中であり計画変更はできない状況であった。そのため，まず町は遺跡発見の通知を提出すること，次に遺跡発掘の通知を提出し発掘調査を実施し，記録保存することとした。また削平工事は10月着工の計画であるため，それまでに発掘調査を実施するよう調整することとした。

平成７年５月18日

遺跡発見の通知が提出された。遺跡名は池ノ浦墳墓と命名された。

平成７年６月29日

遺跡発掘の通知が提出された。

以上の経過を受け平成７年８月28日～９月22日の期間で，本遺跡の発掘調査が実施されることとなった。

II.　地理的歴史的環境

1．地理的環境

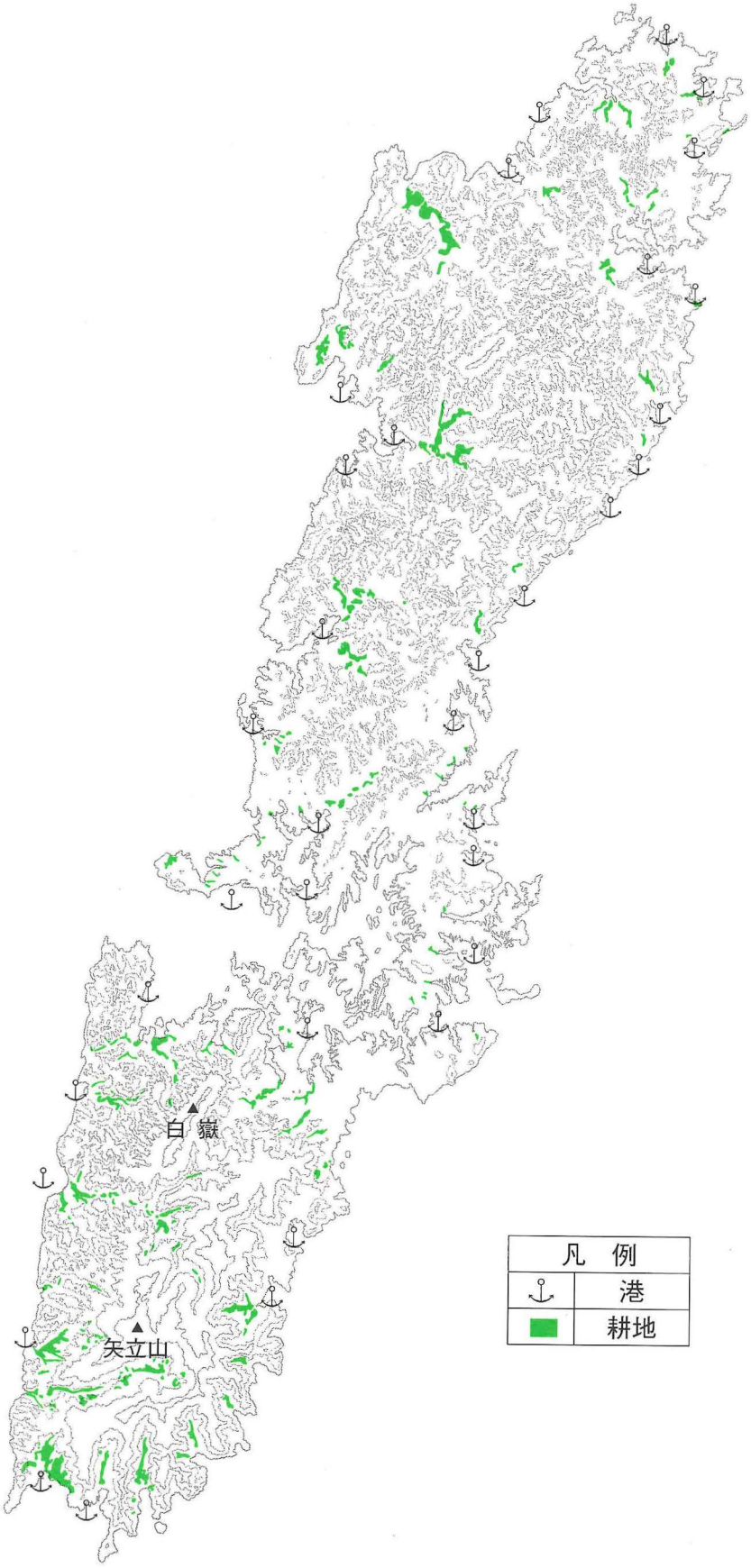
対馬は，九州本土と朝鮮半島の間に位置する南北約82km，東西約18kmの長方形の島である。隣島の壱岐まで約50km，九州本土まで約80kmあるのに対し，朝鮮半島までが約50km余りで，古来から大陸と日本列島を結ぶ海路の要衝として知られた。地勢は，北部は中起伏山地（200～400m）が広範に分布し，中央部から南北に向かって山地の高度も起伏量も低くなっている。山地の両海岸には丘陵地を伴い，その南方は浅茅湾周辺の丘陵地に移行している。南部も大半が中起伏山地であるが，最高峰の矢立山（648m）をはじめ局地的に大起伏山地（400m以上）が示される。中央部の浅茅湾周辺の丘陵地は，大半が起伏量100m以下の丘陵で，海進により海岸線は典型的なリアス式海岸を示し，浅茅湾は多島海として有名である。以上のようなことから，農業には適さず，耕地率は2.2%（H 6.8.1）にすぎない（長崎県の耕地率は14.3%）。行政的には下県郡3町，上県郡3町の計6町で，面積は708km²（H 5.10.1），人口は44,053人（H 6.10.1）である。

美津島町は，対馬の中央部に位置し，浅茅湾の東から南岸を町域とし東岸は対馬海峡，西岸は朝鮮海峡に面する。地勢は，南部は白嶽（503m）を主峰とする400m級の山並みがめぐるのに対し，北部は対馬で最も低い浅茅湾周辺の丘陵地から無数の岬が伸び，複雑な入江が形成されている。そのため，海岸線の長さが275kmで日本一である。耕地率は1.5%（H 6.8.1）で対馬の中でも最も低いため，漁業が基幹産業となっており，特に浅茅湾での真珠の養殖は有名である。昭和50年には対馬空港も開港し，対馬の空の玄関口としての役割も担っている。22の大字からなり，面積は119km²（H 5.10.1），人口は8,691人（H 6.10.1）である。

本遺跡は，美津島町の東部に位置し，上島と下島を分ける万関瀬戸の北東に所在する。この付近には三浦湾側に発達したリアス式海岸によって，いくつもの浦が形成されている。そのひとつに，池ノ浦がある。遺跡は，池ノ浦の北西から南東へ50mほど突き出た瘤状の岬の突端部に立地する。行政上は，下県郡美津島町大字久須保字池ノ浦である。大字名の久須保の由来は諸説あるが，浅茅湾に越す「万関越」があったため，「コス浦」からきたのではないかとおもわれる。北緯34度18分10秒，東経129度21分50秒付近を中心とし，標高18mをはかる。

〈参考文献〉

『角川地名大辞典　42長崎県』　角川書店　1987
『土地分類基本調査　厳原・仁位』　長崎県土地対策室　1986
『土地分類基本調査　三根・佐須奈』　長崎県土地対策室　1987
「長崎県遺跡地図　対馬地区」　長崎県文化財調査報告書第 118集　長崎県教育委員会　1995
美津島町の自然と文化を守る会『美津島町の自然と文化』　美津島町役場　1981
美津島町誌編集委員会『美津島町誌』　美津島町役場　1978



第１図　対馬の地勢と耕地（１/300,000）

2．歴史的環境

対馬には，現在周知の遺跡として320の遺跡がある（註１）。これは県内3,510の遺跡の9.1％にあたる。面積が県内の17.3％であるから，遺跡密度は平均の半分近くしかないことになる。これは，前述したように，島内の多くが遺跡の立地に適さない急峻な中起伏山地で占められているためである（註２）。ただし，人口は県内の2.8％であるため，人口1,000人あたりの遺跡数は7.2となり，県全体の 2.2と比較すると３倍以上となる。遺跡の時代の内訳は旧石器時代０，縄文時代28，弥生時代187，古墳時代179，奈良時代６，平安時代７，中世49，近世15，不明１となっている（註３）。対馬に旧石器時代の遺跡がないのは不思議である。隣島の壱岐では，原の辻遺跡や興触遺跡など７遺跡（註４）が知られており，旧石器時代の対馬や壱岐が，大陸と日本を結ぶ陸橋になっていたことを思えば，今後，発見される可能性は高いといえよう。縄文時代の遺跡は数は少ないが，朝鮮半島新石器時代の櫛目文土器が出土した上県町の夫婦石遺跡（註５）や，住居跡や墓地が検出され多量の土器，石器，骨角器，貝製品や日本最古の鹿笛が出土した峰町の佐賀貝塚（註６）など貴重なものがある。

この時代の遺跡は，対馬中部から北部の西海岸部に集中している。弥生時代と古墳時代の遺跡はずば抜けて多く，合わせると全体の77.5％を占める。朝鮮半島系の土器と青銅器の出土が多いのが特徴といえよう。奈良時代と平安時代の遺跡が少ないのは県内全般にいえることである。中世の遺跡は館跡や城跡，寺社跡が多く，近世の遺跡は国府であった厳原に集中する。

美津島町の周知の遺跡は 113あり島内の35.6％を占め，1,000人あたりの遺跡の数は13.1となりたいへん多いといえよう。遺跡の時代の内訳は旧石器時代０，縄文時代３，弥生時代78，古墳時代90，奈良時代１，平安時代１，中世14，近世 1となっている。特筆すべきは，弥生時代と古墳時代の遺跡の多さで， 101遺跡がどちらかあるいは両方の複合遺跡となっており，89.3％を占める。さらに，そのうちの90遺跡が古墳または墳墓となっており，特に浅茅湾と三浦湾に突き出た岬の先端部や島には多く見られる。

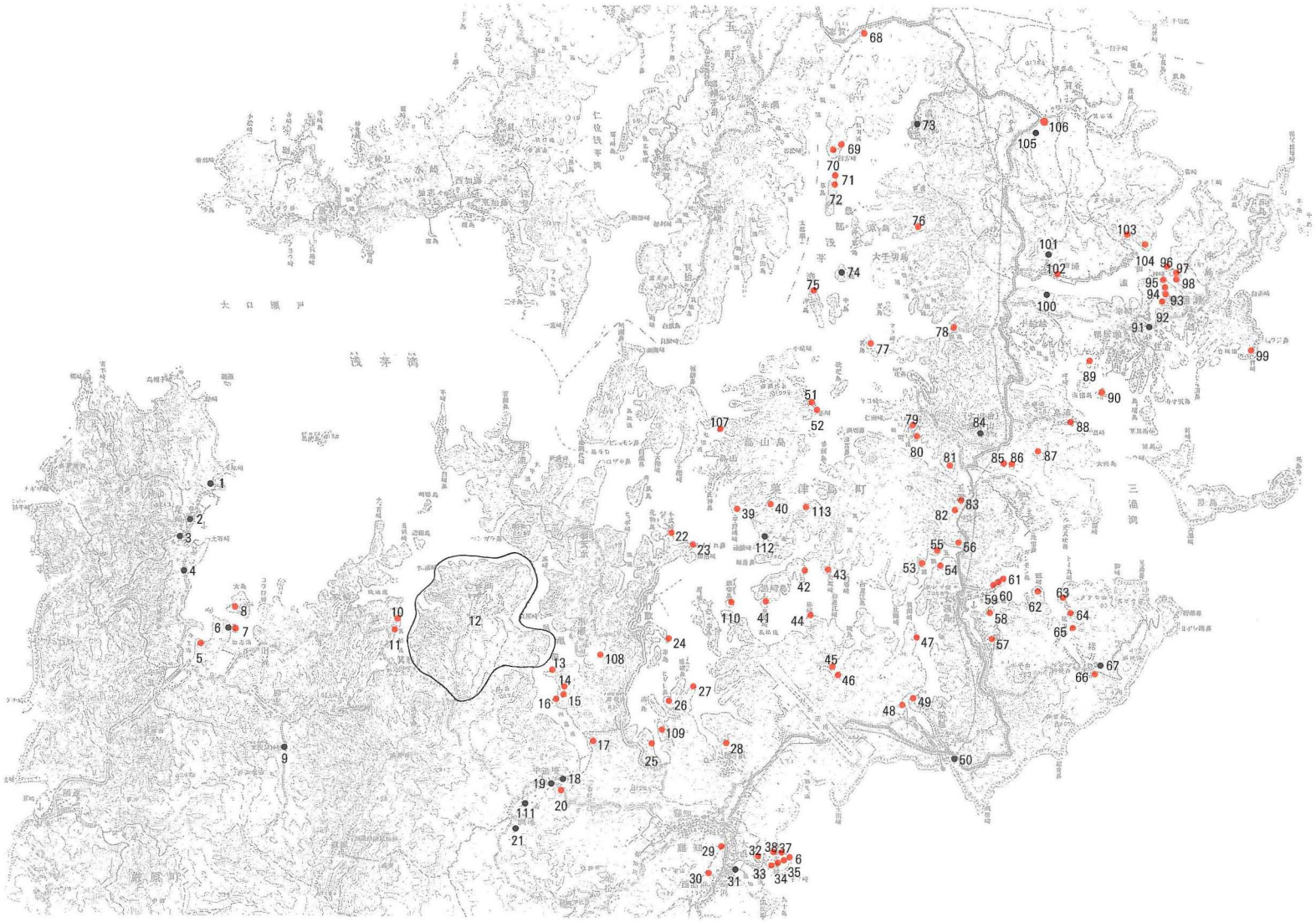
本遺跡の周辺にも，弥生時代から古墳時代のかけての古墳や墳墓が多い。以下は近年発掘調査された三つの遺跡について述べてみたい。

かがり松鼻遺跡（註７）

美津島町のほぼ中央部，万関瀬戸の東，久須保浦に突き出た北面する岬上に所在する。かつてより周知の遺跡であったが，昭和60年に県が実施した，県下遺跡周知事業に伴う美津島町内分布調査のおり半壊した箱式石棺の下部に青銅器が露出しているのが発見された。そのため，自然崩壊の前に発掘調査をすることとなり，昭和62年美津島町の依頼を受け，県文化課が実施した。その結果，石棺一基が検出され，変形細形銅剣１，把頭飾１，ガラス玉 1,200，土器片数十個が副葬品として残存しており，大きな成果を得ることができた。

箕島遺跡（註８）

浅茅湾の北東，濃部浅茅湾に位置する箕島の東側部分に所在する。かがり松鼻遺跡の調査を契機に美津島町教育委員会は，年次的に浅茅湾内の詳細分布調査を実施することになった。本遺跡の調査は，



第2図　美津島町の遺跡地図（1/100,000）※●は墳墓または古墳

平成３年と４年に行われた。その結果，古墳時代と近世の多数の墳墓群を確認し，その内の古墳時代の積石塚２基，箱式石棺２基と，近世の配石石棺土壙墓１基の発掘調査を実施した。出土遺物としては，土師器，須恵器，陶質土器，ガラス小玉，鉄釘，銭貨，貝類があった。

中道壇遺跡（註９）

浅茅湾（洲藻浦）に注ぐ洲藻川河口左岸の河岸段丘に立地する。主要地方道厳原～雞知～豆酘間の道路改良工事に伴い，昭和62年８月，本遺跡の発掘調査が実施された。その結果，遺構としては石棺12基，敷石遺構１基が検出された。遺物の出土は少なく，磨製石剣１，管玉８，管玉片２，弥生式土器，石鏃１，擦切石斧１点のみであった。

註１　本書の遺跡数は以下註がないものはすべて「長崎県遺跡地図対馬地区」 長崎県文化財調査報告書第 118集　長崎県教育委員会　1995による。

註２　対馬の遺跡において標高 200m以上に立地しているものは清水山城跡と金田城跡のみである。

註３　合計が 472になるのは時代が複合する遺跡の場合は，重複してカウントしたためである。

註４　「長崎県遺跡地図壱岐地区」 長崎県文化財調査報告書第 113集　長崎県教育委員会　1994

註５　副島和明編「夫婦石遺跡」『長崎県埋蔵文化財調査集報ＸＶ』 長崎県文化財調査報告書第 104集　長崎県教育委員会　1992

註６　正林護「佐賀貝塚」　峰町文化財調査報告書第９集　1989

註７　高野晋司編「かがり松鼻遺跡」　美津島文化財調査報告書第３集　美津島町教育委員会　1988

註８　本田秀樹編「箕島遺跡」　美津島町文化財報告書第６集　美津島町教育委員会　1993

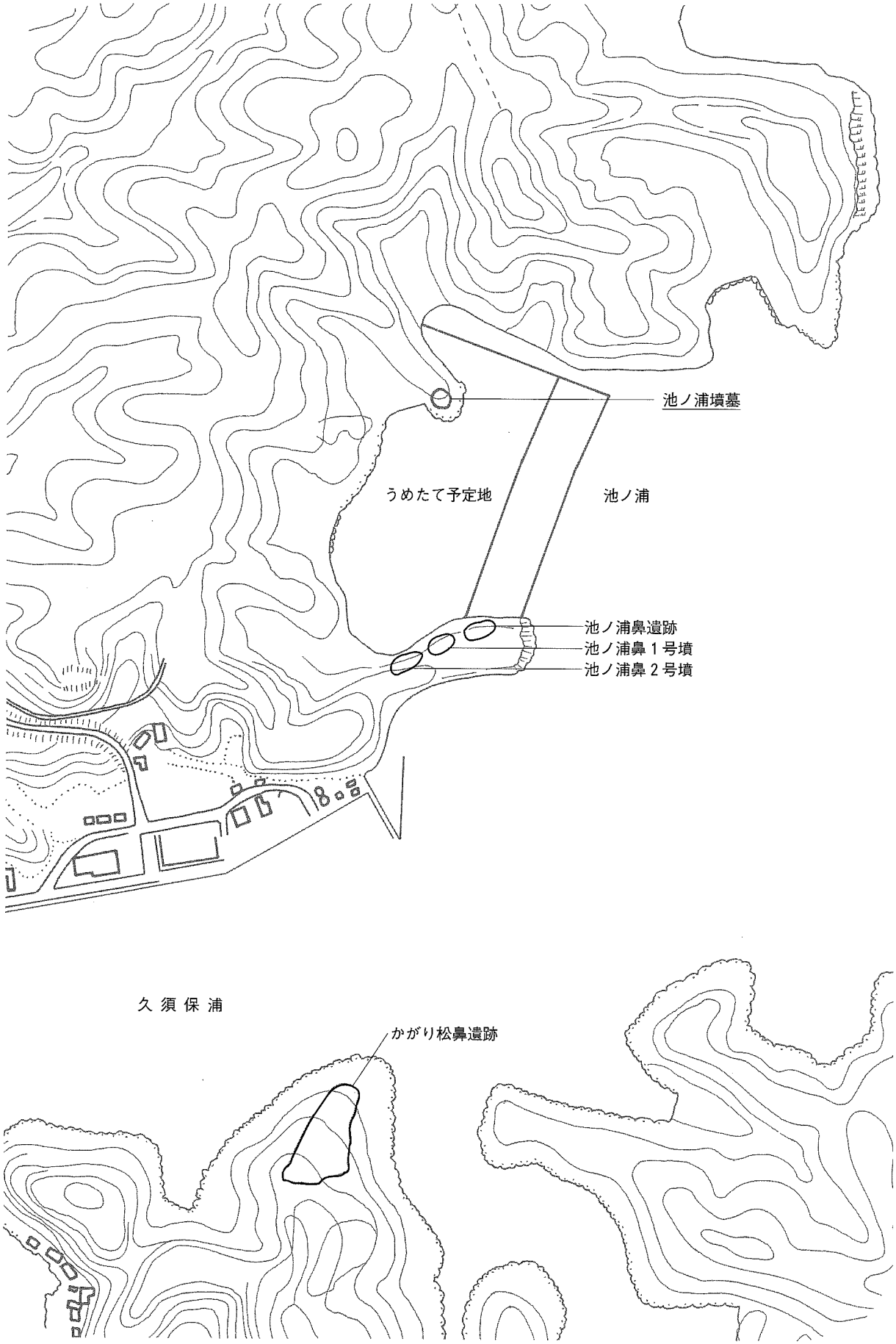
註９　藤田和裕編「中道壇遺跡」 長崎県文化財調査報告書第90集　長崎県教育委員会　1988

〈参考文献〉

美津島町誌編集委員会『美津島町誌』　美津島町役場　1978

長崎県対馬支庁『対馬百科』　対馬自治連絡協議会　1984

正林護『ながさき古代紀行　vol.１対馬』　㈱タウンニュース社　1995



第３図　遺跡周辺図（１/5,000）

番号	名称	種別	立地	時代	番号	名称	種別	立地	時代
1	水崎遺跡	遺物包含地	平地	中世	30	サイノヤマ古墳	古墳	台地	〃
2	大連河内遺跡	〃	〃	〃	31	高浜ヒナタ遺跡	遺物包含地	平地	古墳
3	尾崎前原遺跡	〃	〃	〃	32	根曽西遺跡	墳墓	台地	〃
4	猪ノ浜遺跡	〃	〃	〃	33	根曽4号墳	古墳	丘陵	〃
5	今里浦遺跡	墳墓	岬	弥・古	34	根曽5号墳	〃	〃	〃
6	経島西遺跡	遺物包含地	海岸	古墳	35	根曽6号墳	〃	〃	〃
7	経島遺跡	墳墓	島	弥・古	36	根曽2号墳	〃	〃	〃
8	大島遺跡	〃	岬	〃	37	根曽3号墳	〃	〃	〃
9	太祝詞神社遺跡	石造物	丘陵	弥・中	38	根曽1号墳	〃	〃	〃
10	箕形遺跡1	墳墓	岬	弥・古	39	平野浦崎遺跡	墳墓	岬	弥・古
11	箕形遺跡2	〃	〃	〃	40	平野浦遺跡	〃	〃	弥生
12	金田城跡	城跡	山	古墳	41	黒見崎第2遺跡	〃	〃	弥・古
13	皇后崎第1遺跡	墳墓	岬	弥・古	42	黒見崎第1遺跡	〃	〃	〃
14	皇后崎第2遺跡	〃	〃	〃	43	矢取崎遺跡	〃	〃	〃
15	皇后崎第3遺跡	〃	〃	〃	44	白連江赤崎遺跡	〃	〃	〃
16	皇后崎第4遺跡	〃	〃	〃	45	白連江第1遺跡	〃	〃	縄～古
17	洲藻第2遺跡	〃	〃	〃	46	白連江浦西遺跡	〃	〃	弥・古
18	中道壇遺跡	遺物包含地	台地	〃	47	狭間崎南遺跡	〃	〃	〃
19	堂の原遺跡	〃	丘陵	弥生	48	船越対岸遺跡	〃	〃	〃
20	中道遺跡	墳墓	〃	弥・古	49	菜畑南遺跡	〃	〃	〃
21	緑り原遺跡	遺物包含地	平地	弥生	50	大船越遺跡	遺物包含地	平地	縄文
22	小式崎遺跡	墳墓	岬	弥・古	51	赤崎北遺跡	墳墓	岬	中世
23	みそくれ鼻遺跡	〃	〃	〃	52	赤崎遺跡	〃	〃	古墳
24	モウコ崎遺跡	〃	〃	〃	53	玉調第4遺跡	〃	丘陵	弥・古
25	久須ノ浦第1遺跡	〃	〃	古墳	54	玉調第3遺跡	〃	岬	〃
26	ヒギレ鼻遺跡	〃	〃	弥・古	55	玉調第2遺跡	〃	〃	〃
27	一本松遺跡	〃	丘陵	〃	56	玉調浦遺跡	〃	〃	古墳
28	樽ケ浜遺跡	〃	岬	〃	57	久須保遺跡	〃	〃	弥・古
29	鶴の山古墳	古墳	丘陵	古墳	58	かがり松鼻遺跡	〃	〃	〃

第1表　美津島町の遺跡一覧表　①

番号	名称	種別	立地	時代	番号	名称	種別	立地	時代
59	池ノ浦鼻2号墳	古墳	〃	古墳	88	畠ノ浦遺跡	〃	〃	弥・古
60	池ノ浦鼻1号墳	〃	〃	〃	89	寺島遺跡	〃	島	〃
61	池ノ浦鼻遺跡	墳墓	岬	弥・古	90	鴨居瀬沖ノ島遺跡	〃	〃	〃
62	甑崎遺跡	〃	〃	〃	91	住吉橋下遺跡	遺物包含地	海岸	縄文
63	緒方浦第3遺跡	〃	〃	〃	92	住吉第3遺跡	墳墓	岬	弥・古
64	緒方浦第2遺跡	〃	〃	〃	93	住吉第2遺跡	〃	〃	弥生
65	緒方浦第1遺跡	〃	〃	〃	94	住吉第1遺跡	〃	〃	弥・古
66	姫神社遺跡	〃	台地	〃	95	海落第4遺跡	〃	〃	〃
67	久須原遺跡	遺物包含地	平地	中世	96	海落第3遺跡	〃	〃	〃
68	和板遺跡	墳墓	岬	古墳	97	海落第1遺跡	〃	〃	古墳
69	白方崎2号石棺	〃	丘陵	弥・古	98	海落第2遺跡	〃	〃	弥・古
70	白方崎1号石棺	〃	〃	〃	99	竹崎遺跡	〃	〃	弥生
71	草島1号石棺	〃	島	〃	100	おおぼら洞穴	遺物包含地	山腹	〃
72	草島2号石棺	〃	丘陵	〃	101	芦ケ浦洞穴	〃	〃	中世
73	濃部遺跡	遺物包含地	平地	中世	102	芦ケ浦遺跡	墳墓	丘陵	弥・古
74	丸島遺跡	積石塚	島	弥・古	103	雷浦第1遺跡	〃	岬	〃
75	沖ノ島遺跡	墳墓	〃	〃	104	雷浦第2遺跡	〃	〃	〃
76	綿打河内遺跡	〃	岬	〃	105	賀谷洞穴遺跡	洞穴遺跡	山腹	弥生
77	箕島遺跡	〃	島	弥～中	106	賀谷遺跡	墳墓	岬	弥・古
78	塚塔崎遺跡	〃	岬	中世	107	弘法浦遺跡	〃	〃	〃
79	和田ノ浦第3遺跡	〃	台地	弥～中	108	黒瀬遺跡	〃	〃	古墳
80	和田ノ浦第2遺跡	〃	丘陵	弥・古	109	久須ノ浦第2遺跡	〃	〃	〃
81	和田ノ浦第1遺跡	〃	〃	〃	110	頭切島遺跡	〃	島	弥・古
82	玉調ハナデンポ遺跡	〃	台地	〃	111	中里原遺跡	遺物包含地	台地	古・中・近
83	ハナデンポ北遺跡	〃	岬	〃	112	ヨウジヤク遺跡	包蔵地	海岸	弥生(?)
84	大山城跡	城跡	山	中世	113	江ノ内遺跡	墓地	岬	弥生
85	入道ケ浦第2遺跡	墳墓	岬	弥・古					
86	入道ケ浦第3遺跡	〃	〃	〃					
87	中ノ浦遺跡	〃	〃	古墳					

第2表　美津島町の遺跡一覧表　②

Ⅲ．調査の概要

調査は，平成７年８月28日～９月14日の期間で実施された。調査区は岬の礫が散乱している部分全域とした。調査区は草木に覆われていたため，まず，伐採を行い遺跡の広がりを確認した。遺跡は岬の突端部の最も高い部分を中心に，約60m²の範囲であった。つぎに，表面に浮き出ている遺物を採取した。遺物としては，須恵器と陶質土器があった。その後，石組の全容を明らかにし，遺構を確認するため，10～20cmほど掘り下げた。そして，写真撮影を行い，平面実測図をとった。その際，遺跡全域を東から西にＡ～Ｊ，南から北に１～10の区域（１ｍ×１ｍ）に分けた。並行して遺物の取り上げを行っていったが，全域から須恵器，陶質土器などが出土した。また，南端部の石組の間からは，須恵器の坏とその中に入った砂岩製の紡錘車，鉄鏃，青銅製リングが出土し，その西側からは耳環Ａが，さらに１ｍ先からは耳環Ｂが出土し，東側からはガラス小玉が出土した。平面実測後，礫を取り除きながら堀り下げていったが，礫より下からの遺物の出土はなかった。

Ⅳ．遺　　構

墳墓の調査ということで，石棺等の検出が期待されたが，破壊の受け方が著しく，遺構の特定もままならない状況であった。かろうじて，礫の集中状態からみると，中央部の石組を一つの大きな遺構，南端部の石組を小さな遺構と捉えるのが妥当のようである。

中央部の石組は，石棺であったのではないかと推測される。中央には，長さ約80cm，幅約40cm，厚さ数cmの板状礫が２枚残っており，棺床の敷石であった可能性がある。ただし，原位置を保っているのか断定はできない。蓋石については，全く見当たらない。側壁に使われたと思われる大小の直方体の礫は，四方に散乱している状態であった。遺物としては，須恵器，陶質土器等が，石組の間および周辺から出土した。

南端部の石組は，まさに岬の最先端部に位置し，１ｍ先は断崖となっている。長さ約30cmの直方体の礫やそれよりやや大きな不定型の礫が集中するが，規模も小さく敷石や蓋石と思われるものはない。ただし，前述のように，石組の間および周辺から特徴的な遺物が出土していることから，なんらかの埋納遺構であったと思われる。

第4図　池ノ浦遺跡　平面図（1/50）

V. 遺　物

1．遺物概要

今回の調査では，須恵器・陶質土器等約80点，鉄器，青銅品，ガラス小玉等の遺物が出土している。出土地点は表土がほとんどである。

2．須 恵 器

・蓋（第5図―1・2・3　図版4―1・2・3）

1は口縁の一部を欠く。調査区南端の石組直下より出土。口径12cm，器高4.5cmを測る。天井部は丸く，ヘラ削りによる調整がされている。天井部と口縁部の境は短く鋭い稜をなす。口縁部は直線的に伸び，端部内面には内傾する段が明瞭につく。口縁部及び内面はナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

2は全体の1/2を欠く。口径10.4cm，器高2.7cmを測る。身受けのかえりがつく。天井部は面をなす。面になっている部分はヘラ削りによる調整がされている。端部は丸くおさめる。外面体部及び内面はナデ調整され，一部内面に指によるナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

3は全体の1/3を欠く。口径15.6cm，器高3.4cmを測る。擬宝珠状のつまみを有する。身受けのかえりがつき，かえりは口縁端面とほぼ同一面をなす。外面はヘラ削り及びナデ調整がされているが，内面の調整は風化によりわかりずらい。焼成は良である。断面は灰色。

・杯身（第5図―4～14　第6図―15～23　図版4―4～23）

4は全体のごく一部を欠く。立ち上がりは内湾した後やや外にひらく。端部は丸くおさめる。受部は，水平につまみ出されている。外面底部はヘラ削りによる調整がされ，体部は内，外面共にナデ調整，内面底部は横ナデによる調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

5はほぼ完形である。立ち上がりはやや内湾している。端部は丸くおさめる。受部は杯体部からそのまま伸びている。底部は面をなしている。調整は風化によりわかりずらく，内面体部のナデ調整が確認できる程度である。焼成はやや良である。断面は灰色。

6は全体の2/3を欠く。立ち上がりは内湾した後やや外にひらく。端部は丸くおさめる。受部は杯体部からそのまま伸びて水平に仕上がっている。特に胎土が粗く，小石が混じっている。内，外面底部は横ナデで調整されている。内，外面体部はナデ調整がされている。また体部には，ヘラ記号がついている。焼成はやや良である。断面は茶褐色。

7は全体の2/3を欠く。立ち上がりは内湾した後やや外にひらく。端部は丸くおさめる。受部は体部より伸びた感じである。内，外面共にナデ調整がされている。器形は須恵器のものであるが，全体が赤褐色であること，体部にややシャープさを欠くなどから似非須恵土師器ではなかろうか。

8は全体の2/3を欠く。端部はやや外反して丸くおさめる。底部はやや面をなしている。内，外面体部はナデ調整がされている。外面底部は風化が激しく調整は不明であるが，内面は横ナデがされて

いる。焼成は不良である。断面は淡灰色。

9 は全体の１/２を欠く。端部はやや内湾して立ち上がり丸くおさめる。内，外面底部は共に横ナデによる調整がされている。体部は共にナデ調整がされている。体部にはヘラ記号がされている。焼成は不良である。断面は淡灰色。

10は口縁部の１/２を欠く。端部は丸くおさめる。外面底部はヘラ削りがなされている。外面体部及び内面はナデ調整がされている。焼成は不良である。断面は淡灰色。

11は口縁部のみである。端部は丸くおさめる。内，外面共にナデ調整がされている。焼成はやや良である。断面は灰色。

12はほぼ完形である。口縁部は外反して，端部は丸くおさめる。体部より底部端にかけてやや厚くなり，底部は面をなす。外面底部は横ナデで調整されている。体部はナデ調整がされている。内面は風化が激しく調整は不明である。焼成は不良である。断面は灰色。

13は全体の１/３を欠く。端部は丸くおさめる。体部は底部より直線的にのびている。高台はやや外側にはり出している。体部と底部の間に沈線が二本はいる。外面底部より内面体部にかけてはナデ調整がされている。内面底部は横ナデによる調整がされている。胎土は粗く，小石が混ざっている。焼成はやや良である。断面は灰色。

14は底部のみである。高台は外に強くはり出す。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

15は全体の１/２を欠く。端部は丸くおさめる。体部は斜め上方に直線的に伸びる。高台は底部端よりやや内側にありわずかに外側にはり出す。高台部端は外側にはり出している。高台内部はヘラ削りがされている。内，外面共に体部はナデ調整がされている。内面底部は横ナデによる調整がされている。焼成は良である。断面は褐色。

16は口縁部のみである。端部は丸くおさめる。内外面共にナデ調整がされている。胎土は粗い。焼成は不良である。断面は灰色。

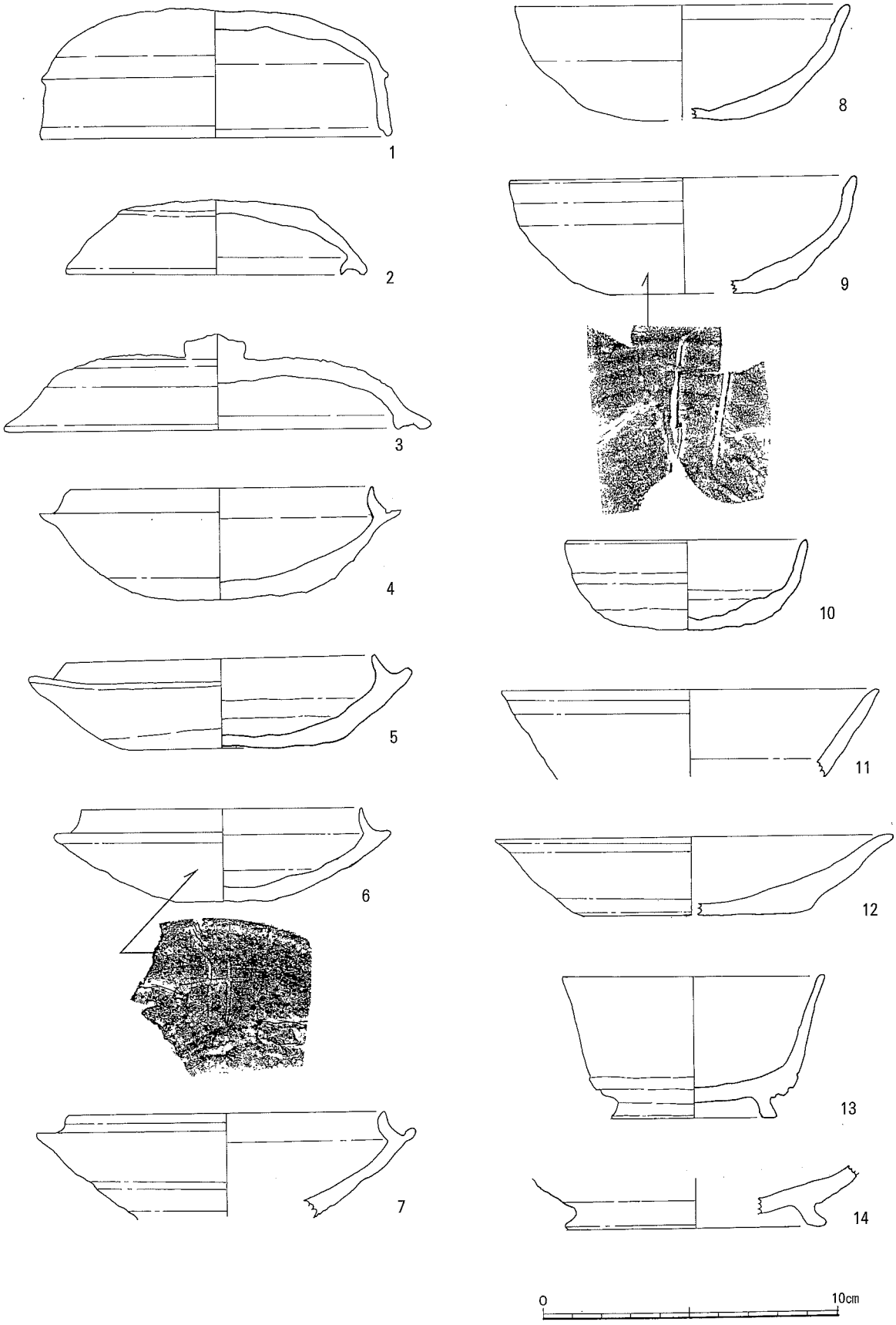
17は全体の３/４を欠く。端部は丸くおさめる。体部は斜め上方に直線的に伸びる。高台は垂直にはり出している。端部端は外にはり出す。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は褐色。

18は口縁部のみである。端部は丸くおさめる。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は褐色。

19は底部を欠く。端部は丸くおさめる。体部は斜め上方に伸びる。底部付近に沈線が２本はいる。外面には黒色の釉が付着している。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。高坏かもしれない。

20は底部を欠く。端部はやや外反して丸くおさめる。体部は斜め上方に伸びる。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。高坏かもしれない。

21は全体の２/３を欠く。端部はやや外反して丸くおさめる。体部は斜め上方に伸びる。内面底部か



第5図　須恵器実測図①（S＝1／2）

ら外面体部にかけてはナデ調整がされている。外面底部は横ナデがされている。焼成は良である。断面は灰色。高坏かもしれない。

22は口縁部のみである。やや外反ぎみに伸び端部は丸くおさまる。全体に黒色の釉がかかる。内外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。高坏かもしれない。

23は口縁部のみである。端部は丸くおさめる。体部は斜め上方に延びる。底部付近に沈線が１本はいっている。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。高坏かもしれない。

・壺（第６図―24～26　第７図―27～32　図版４―24～26　図版５―27～32）

24は短頸壺である。全体の２/３を欠く。端部は丸くおさめる。口縁部はやや内湾して立ち上がる。肩部に張りがある。外面口縁直下，肩部のそれぞれに沈線がはいる。全体に黒い粒が付着している。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は淡灰色。

25は短頸壺である。全体の１/２を欠く。肩部の張りはなだらかである。内面には体部から底部にかけて明瞭な段が付く。外面底部はヘラ削りがされている。あとは内，外面ともナデ調整がされている。焼成はやや良である。断面は灰白色。

26は短頸壺である。全体の１/２を欠く。肩部の張りはなだらかである。内面には体部から底部にかけて段が付いている。外面底部はヘラ削りがされている。あとは内，外面ともナデ調整がされている。焼成はやや良である。断面は灰白色。

27は長頸壺であろうか。全体の１/２及び頸部を欠く。外面肩部から底部にかけてはヘラ削りがなされ，肩部から上はナデ調整されている。内面は底部端に至るまでナデ調整がされ底部は横ナデがされている。焼成は良である。断面は灰色。

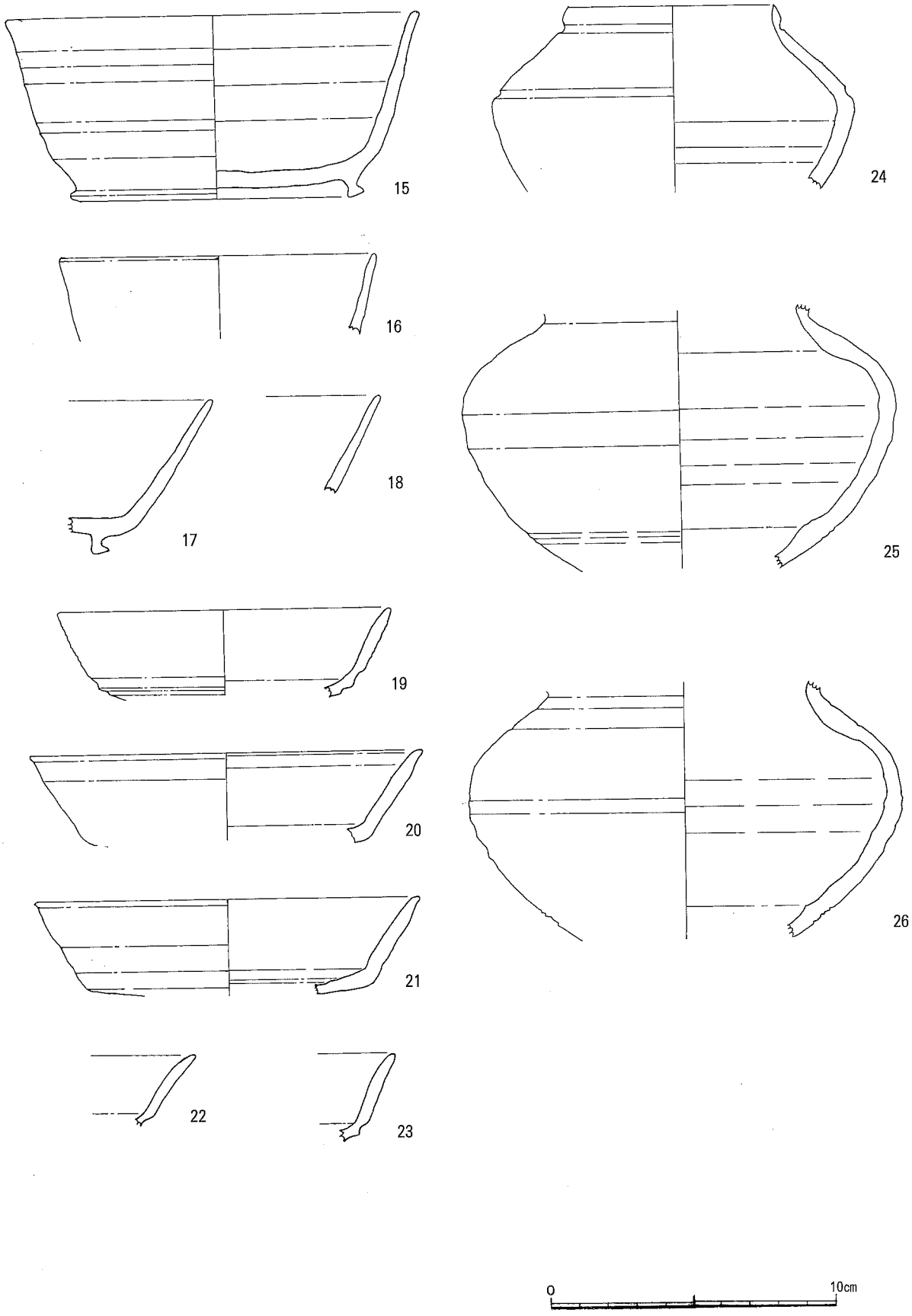
28は長頸壺の頸部である。内，外面共にナデ調整がされている。頸部と体部をつなぐために粘土のはりつけがされ，指による調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

29は長頸壺であろうか。頸部及び底部を欠く。体部は上半で強く屈曲して稜ができる。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は淡灰色。

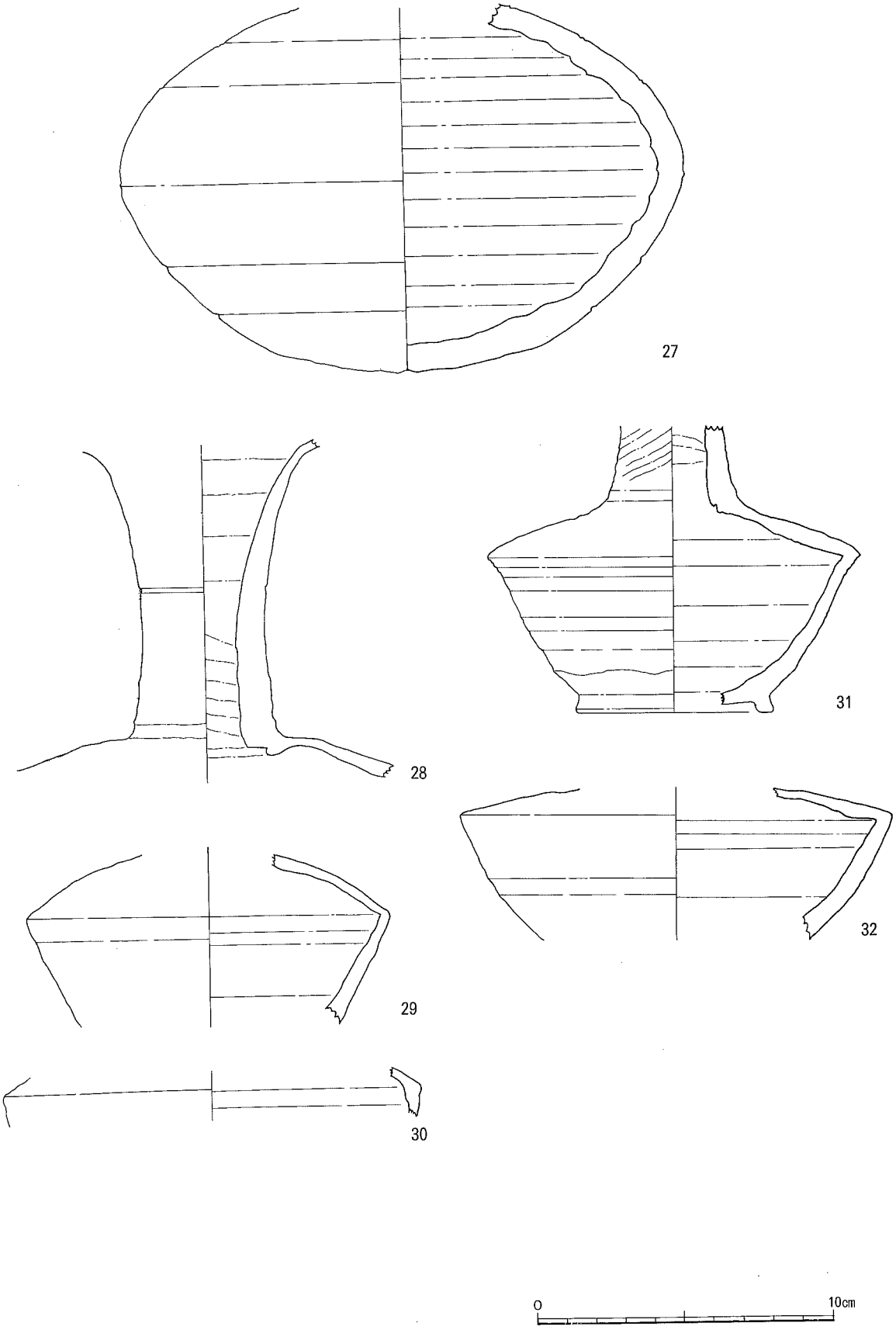
30は長頸壺の肩部であろうか。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

31は台付長頸壺である。底部及び頸部の一部を欠く。外面全体に黒色の釉がつく。体部は上半で強く屈曲して稜ができる。高台はやや外側にはり出している。外面頸部から体部上半にかけてはナデ調整がされ，下半はヘラ削りがされている。内面頸部及び体部はナデ調整がされ，体部との接続部分は指による調整がされている。焼成は良である。

32は長頸壺であろうか。底部及び頸部を欠く。体部上半で強く屈曲する。内，外面共にナデ調整がされている。胎土は粗い。焼成はやや良である。断面は灰色。



第 6 図　須恵器実測図②（S＝1／2）



第7図　須恵器実測図③（S＝1／3）

3．陶質土器

・杯身（第8図―33・34　図版5―33・34）

33は底部を欠く。やや内湾して立ち上がり端部は丸くおさめる。受部は体部より伸びた感じである。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面はあずき色。

34は全体の2/3を欠く。端部は丸くおさまる。底部は面をなしている。内，外面の体部はナデ調整，底部は横ナデがされている。焼成は良である。断面はあずき色。

・壺（第8図―35～37　図版5―35～37）

35は全体の1/2を欠く。底部は平底。体部は底部より丸みを持って立ち上がる。外面底部は胎土が粗く調整は不明だが，内，外面体部はナデ調整がされている。内面底部は横ナデがされている。焼成は不良である。断面はあずき色。

36は台付長頸壺であろうか。頸部及び台部を欠く。底部より体部は丸みを持って立ち上がる。肩部のあたりに波状文を持つ。底部は強くヘラ削りされている。外面体部はヘラ削りされ，内面体部はナデ調整がされている。内面底部はヘラ及び指による調整がされている。焼成は良である。断面は灰色。

37は頸部のみである。端部は外反しながら丸くおさめる。頸部中央には2本沈線がはいっている。内面全体及び外面半分に黒色の釉がかかっている。体部との接続部分は失われている。内，外面共にナデ調整がされている。焼成は良である。断面はあずき色。

・甕（第8図―38　第9図―39　第10図―40　図版6―38・39　図版7―40）

38は全体の2/3を欠く。頸部は強く外反している。体部はなだらかである。頸部は横ナデがされている。外面は格子目状タタキの後ナデ消している。内面は同心円文状タタキがのこっている。焼成は良である。断面はあずき色。

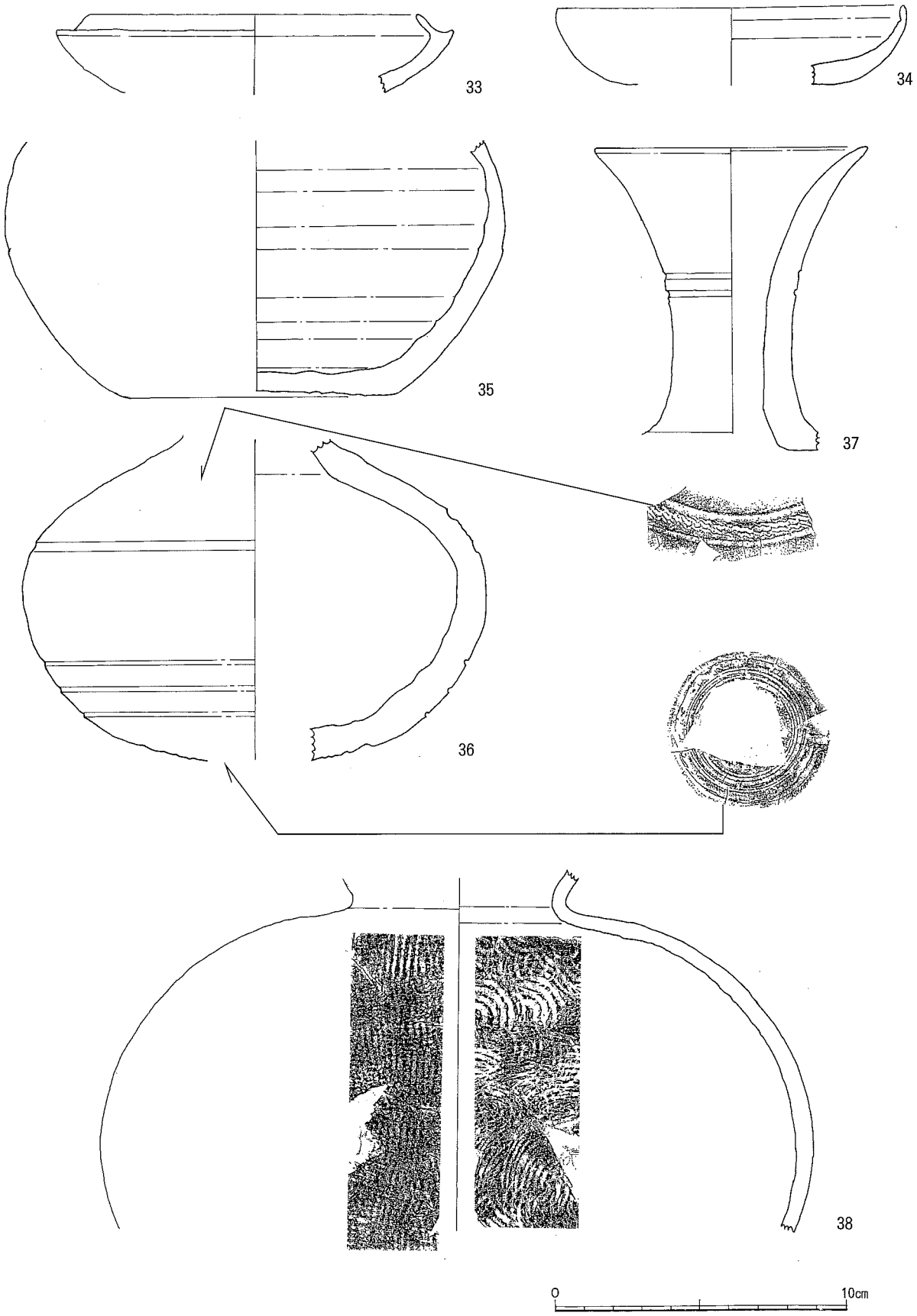
39は頸部及び底部を欠く。外面は格子目状タタキの後横ナデがされている。内面は同心円，平行目タタキがされている。焼成は良である。断面はあずき色。

40は全体の1/2を欠く。受部をもつ。口縁部はやや内湾して立ち上がり，端部は丸くおさめる。受部は斜めにつまみ出されている。口縁部内面から外面体部上半にかけては黄緑色の釉が付いている。外面口縁部から頸部にかけてはナデ調整がされ釉の付着のない部分は平行目状タタキが残る。内面頸部と体部のつなぎめはナデ調整がされあとの体部は車輪文風タタキが残る。焼成は良である。断面はあずき色。

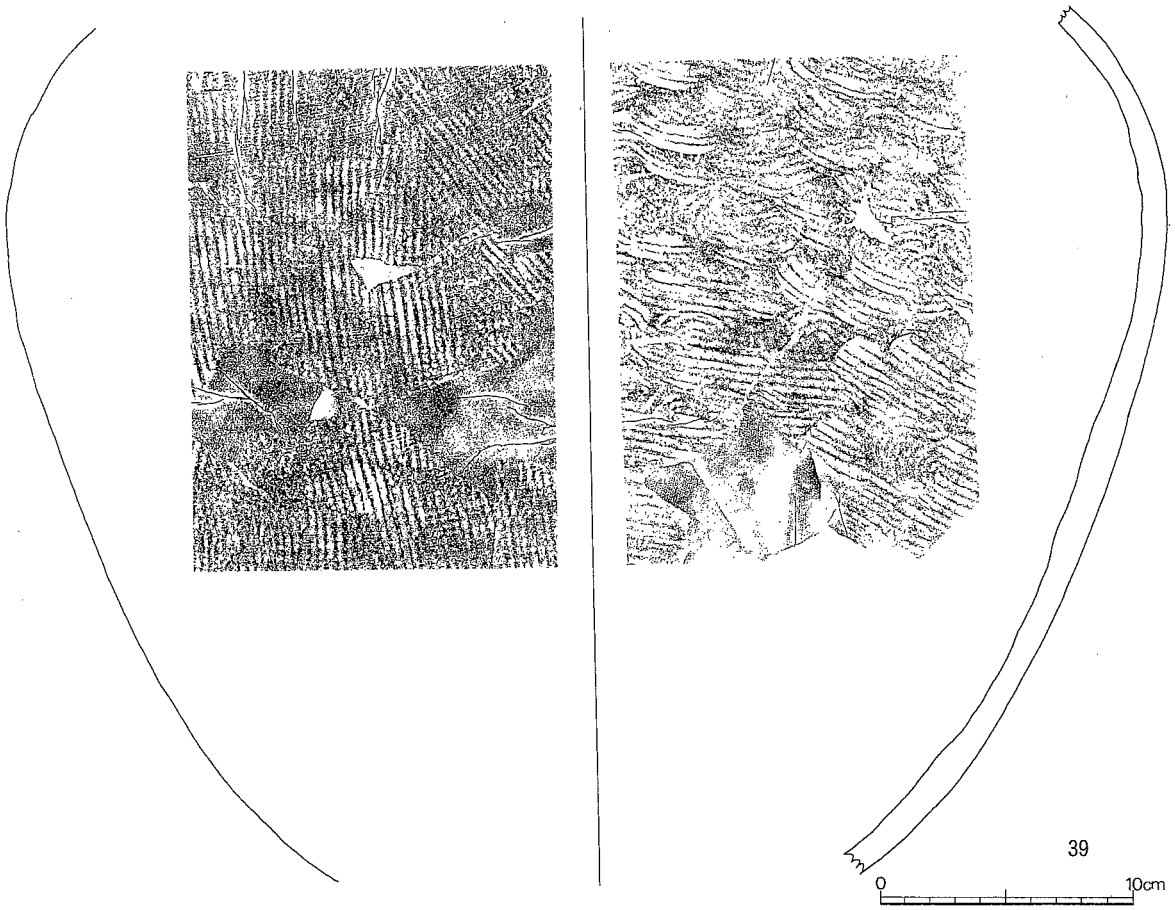
・鉢（第10図―41・42　図版7―41・42）

41は全体の1/2を欠く。復元口径10.8cm，器高8.3cmを測る。口縁部は外反する。体部はやや膨らみをもっている。底部は平底である。体部には斜めにカキ目がされている。その他の調整は不明である。焼成は良である。断面は赤褐色。

42は口縁部のみである。口縁部は外反する。わずかに残る体部には斜めにカキ目がされている。



第8図　陶質土器実測図（S＝1/2　38はS＝1/3）



第9図　陶質土器実測図（S＝1/3）

・椀（第10図―43・44　図版7―43・44）

43は全体の1/3を欠く。復元口径17.8cm，器高5.5cmを測る。口縁部は強く外反する。体部は丸みをもっている。底部は円盤状を呈し，幾分上げ底である。また内面には砂目が残っている。内面全体及び外面体部上半には灰緑色の釉がかかっている。残りの体部は無釉で黒い粒子がみられる。ナデ調整がされている。越州窯系の椀であろう。

44は底部のみである。内面のみを燻した黒色土器（内黒土器）であろう。

4．その他の遺物

・紡錘車（第11図　図版８）

径4.8cm，孔径1.0cm，厚さ0.8cmの砂岩製の紡錘車である。第５図―１の土器の中から出土。

・青銅製リング（第11図　図版８）

幅0.6cm～0.4cm，厚さ0.4cm～0.3cmで現在楕円形を呈している。外側にきざみが入っている。

・耳環（第11図　図版７）

Ａは外径2.3cm，内径1.8cmの円形を呈し，突き合わせはせまい。断面は楕円形。Ｂは外径2.2cm，内径1.8cmの円形を呈し，突き合わせはせまい。断面は楕円形。

・鉄鏃（第11図　図版７）

有茎平根式の圭頭式で先端部が折れているものと考えられる。

・ガラス小玉（第11図　図版８）

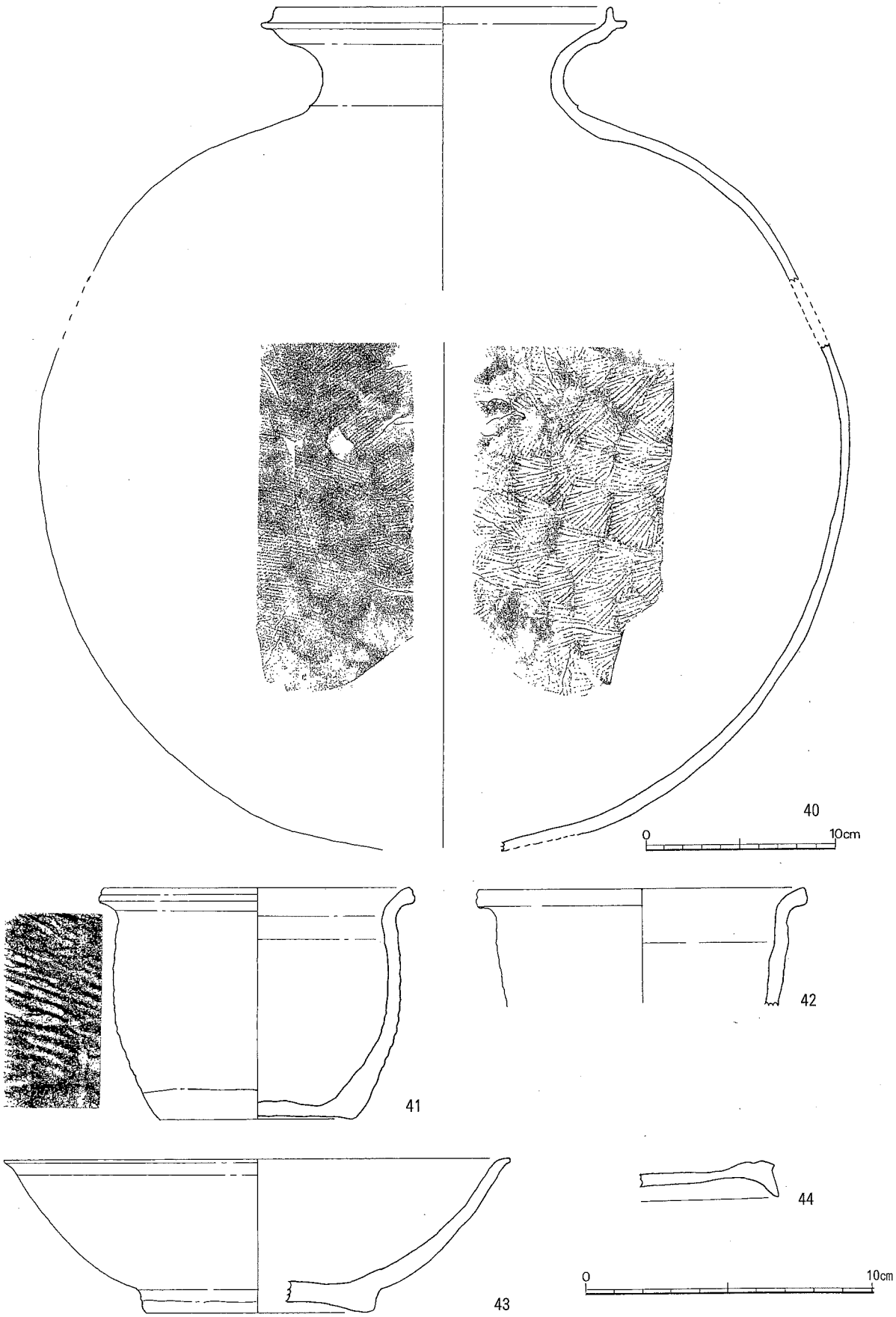
合計90個出土している。形状は，両端をカットしてその面を研磨したものである。4.0mm以上のものが75個で，色調は緑色が38個，青色が34個，紺色が17個，赤色が１個であった。

5．小　　結

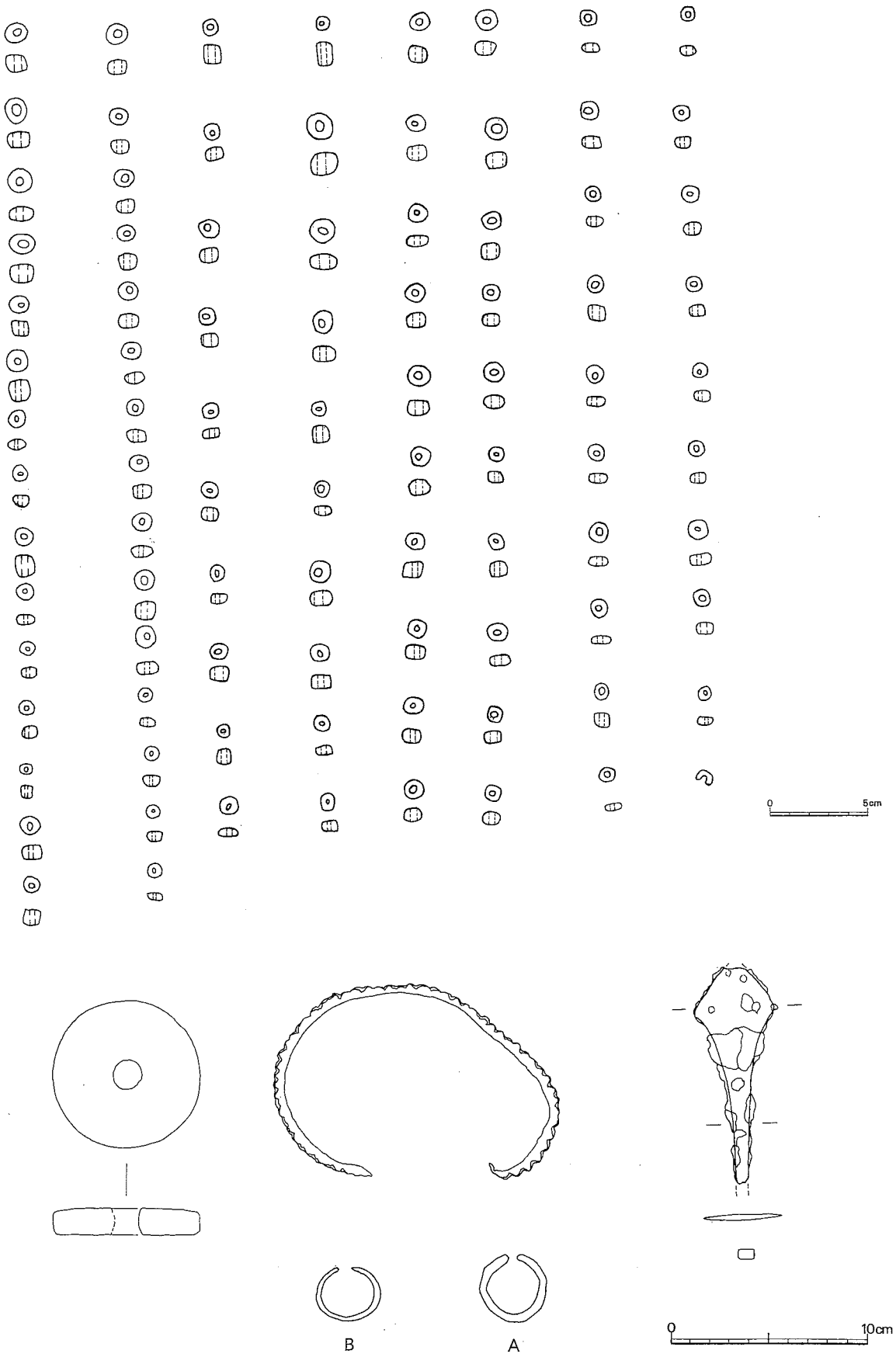
今回の調査では明確な遺構は確認できなかったが，遺物から遺跡の上限は６世紀初頭下限は８世紀末と考えられる。また本遺跡は，立地が池ノ浦北西の岬の突端部であること，陶質土器を出土すること，遺物に年代の幅があることなど対馬の墳墓の特徴を兼ね備えている。また池ノ浦南の岬の突端部にはすでに池ノ浦鼻遺跡，池ノ浦鼻１号墳，２号墳が確認されている。これらの遺跡は浦を単位とする一族のもので本遺跡とは深く関わるものと考えられ，報告がされれば検討が必要と思われる。

〈参考文献〉

『対馬浅茅湾とその周辺の考古学調査』　長崎県文化財調査報告書第17集　長崎県教育委員会　1974
「対馬の遺跡」長崎県文化財調査報告書第20集　長崎県教育委員会　1975
「陶邑Ⅰ」大阪府文化財調査報告書第28集　大阪府教育委員会　1976
「池の上墳墓群」甘木市文化財調査報告第５集　甘木市教育委員会　1979
高野晋司編「中野ノ辻遺跡　里田原遺跡」田平町文化財調査報告書第１集　田平長教育委員会　1982
藤田和裕編「コフノ採遺跡」上対馬町文化財調査報告書第１集　上対馬町教育委員会　1984
高野晋司編「かがり松鼻遺跡」美津島町文化財調査報告書第３集　美津島町教育委員会　1988
本田秀樹編「箕島遺跡」美津島町文化財調査報告書第６集　美津島町教育委員会　1993
横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』　九州歴史資料館　1978
橋口達也「似非土師須恵器」『生産と流通の考古学』　横山浩一先生退官記念論文集Ⅰ　1989
今津啓子「朝鮮系軟質土器流通の背景金海礼安里遺跡の検討」『生産と流通の考古学』　横山浩一先生退官記念論文集Ⅰ　1989
尾上元規「古墳時代鉄鏃の地域性長頸式鉄鏃出現以降の西日本を中心として」『考古学研究』　第46巻　第１号　1993



第10図　土器実測図（S＝1／2）40はS＝1／3



第11図　遺物実測図（ガラス玉S＝1/1　その他S＝1/2）

VI. まとめ

今回の調査により，本遺跡が古墳時代後期～奈良時代の墳墓であることが確認された。以下，今回調査の成果を簡単にまとめたい。

① 本遺跡は，出土した土器より6世紀初頭～8世紀末にかけて営まれたものと考えられる。

② 破壊が著しいため断定はできないが，中央部に石棺，南端部に何らかの埋納遺構があったと思われる。

③ 副葬品として青銅製品が残存していたこと，土器は，日本系のものと朝鮮半島系のものがほぼ同数出土したことは，対馬の遺跡として特徴的であり，対馬の地理的歴史的位置をよく表しているといえる。

④ 近隣のかがり松鼻遺跡と比較して，土器は破片も大きくかなり復元できたものもあった。しかし，ガラス小玉の数も少なく大型の副葬品がないこと，破壊が著しく人為的なものであることからみて盗掘を受けていると考えられる。

⑤ 遺構の石材については対州層群の泥岩であり，付近の海岸部に類似した方形の石がみられるため，それを利用したものと考えられる。

今回の調査の目的は，漁港修築のため遺跡の現状保存が困難なことから，記録保存を行うことにあった。調査により，岬の突端部の墳墓という，浅茅湾周辺に多数存在するの特徴的な遺跡の性格を明かにする上で重要な資料が得られたことは意義深い。

〈参考文献〉

小田富士男ほか『対馬浅茅湾とその周辺の考古学調査』 長崎県文化財調査報告書第17集　長崎県教育委員会　1974
坂田邦洋「対馬の遺跡」長崎県文化財調査報告書第17集　長崎県教育委員会　1975
高野晋司編「かがり松鼻遺跡」美津島町文化財報告書第3集　美津島町教育委員会　1988
『土地分類基本調査厳原・仁位』 長崎県土地対策室　1983

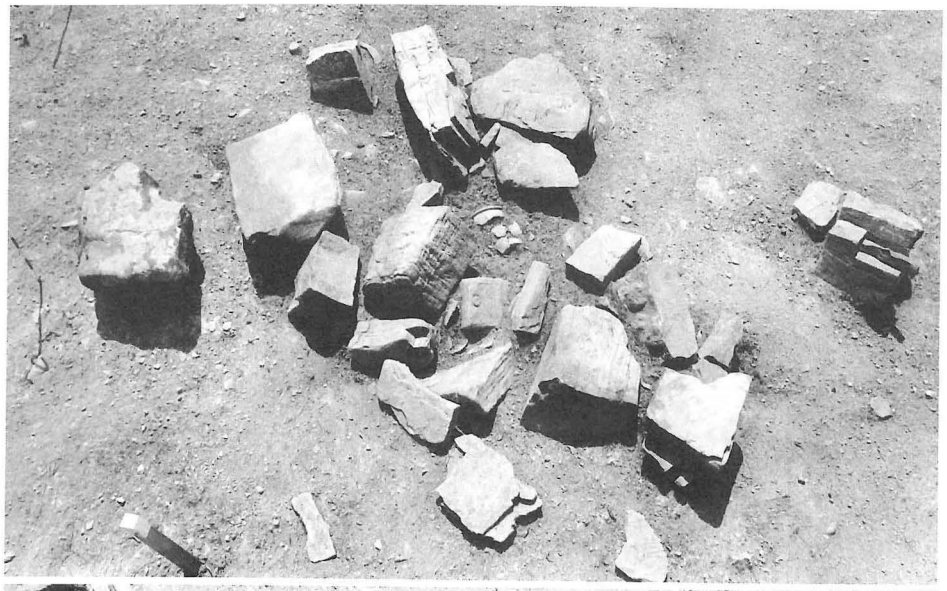
図　　版

遠景

遠景

近景

図版１　遺跡の遠景・近景



遺構
（南端部）

遺構
（中央部）

調査風景

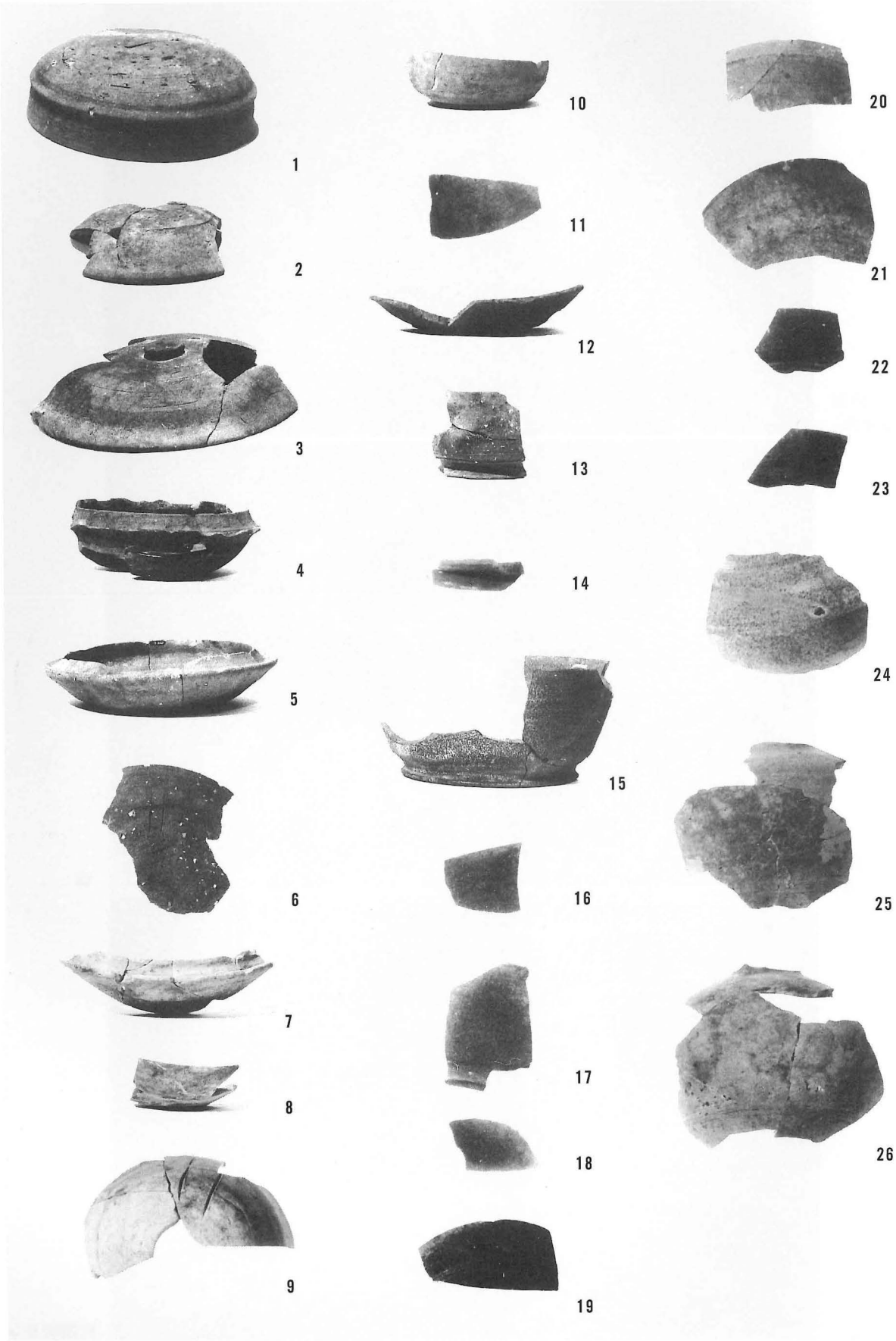
図版 2　調査風景・遺構

須恵器と
紡錘車

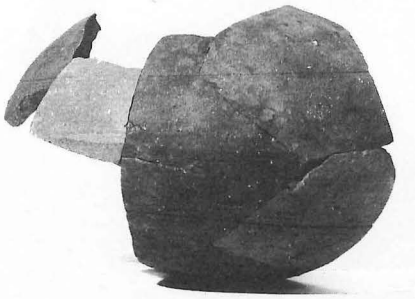
鉢

青銅製リング

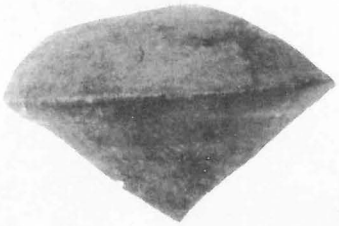
図版 3　遺物出土状況



図版 4　出土遺物①

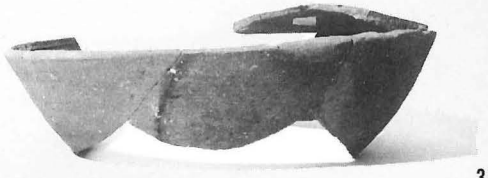

27

28


29

30

31


32

33

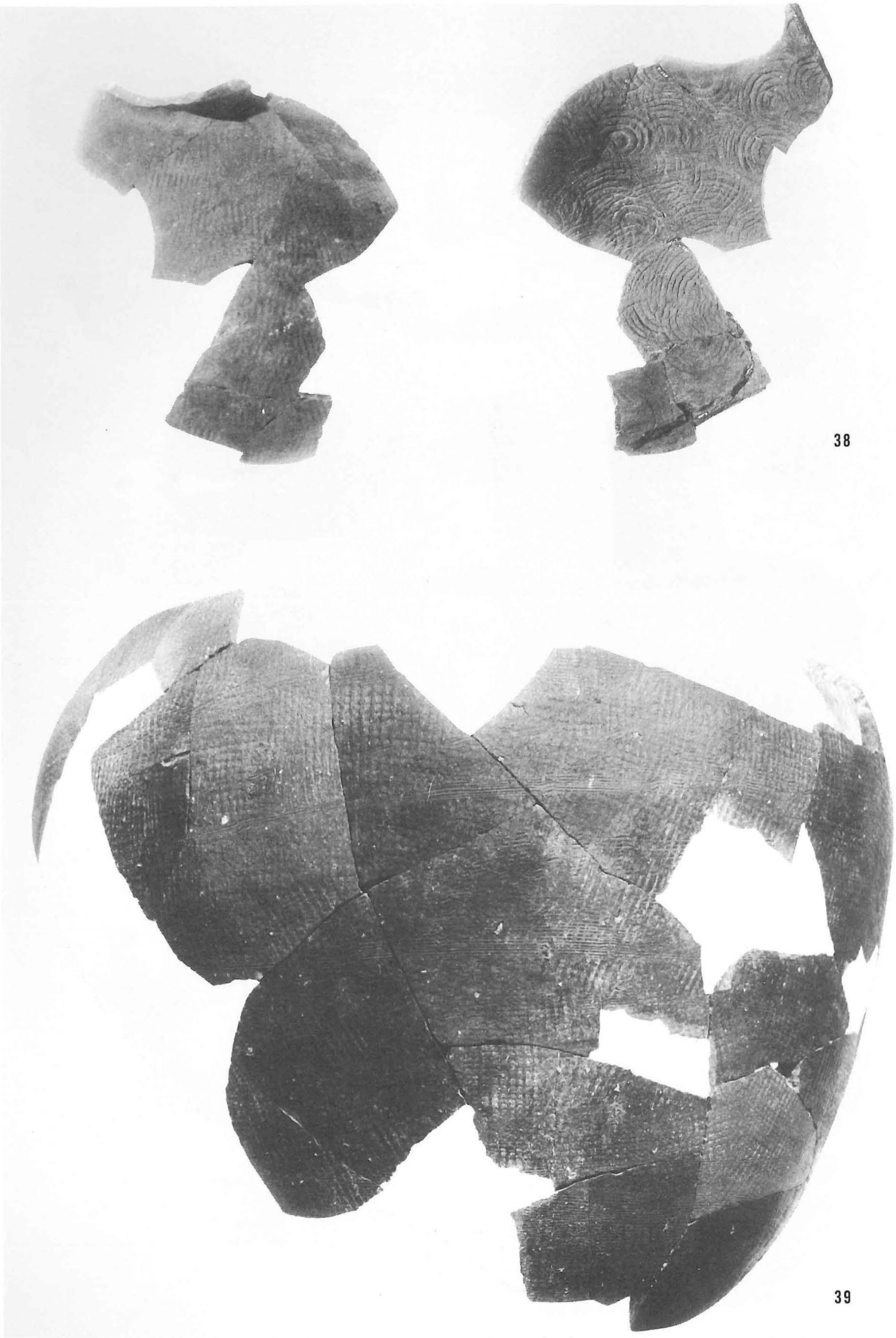
34

35

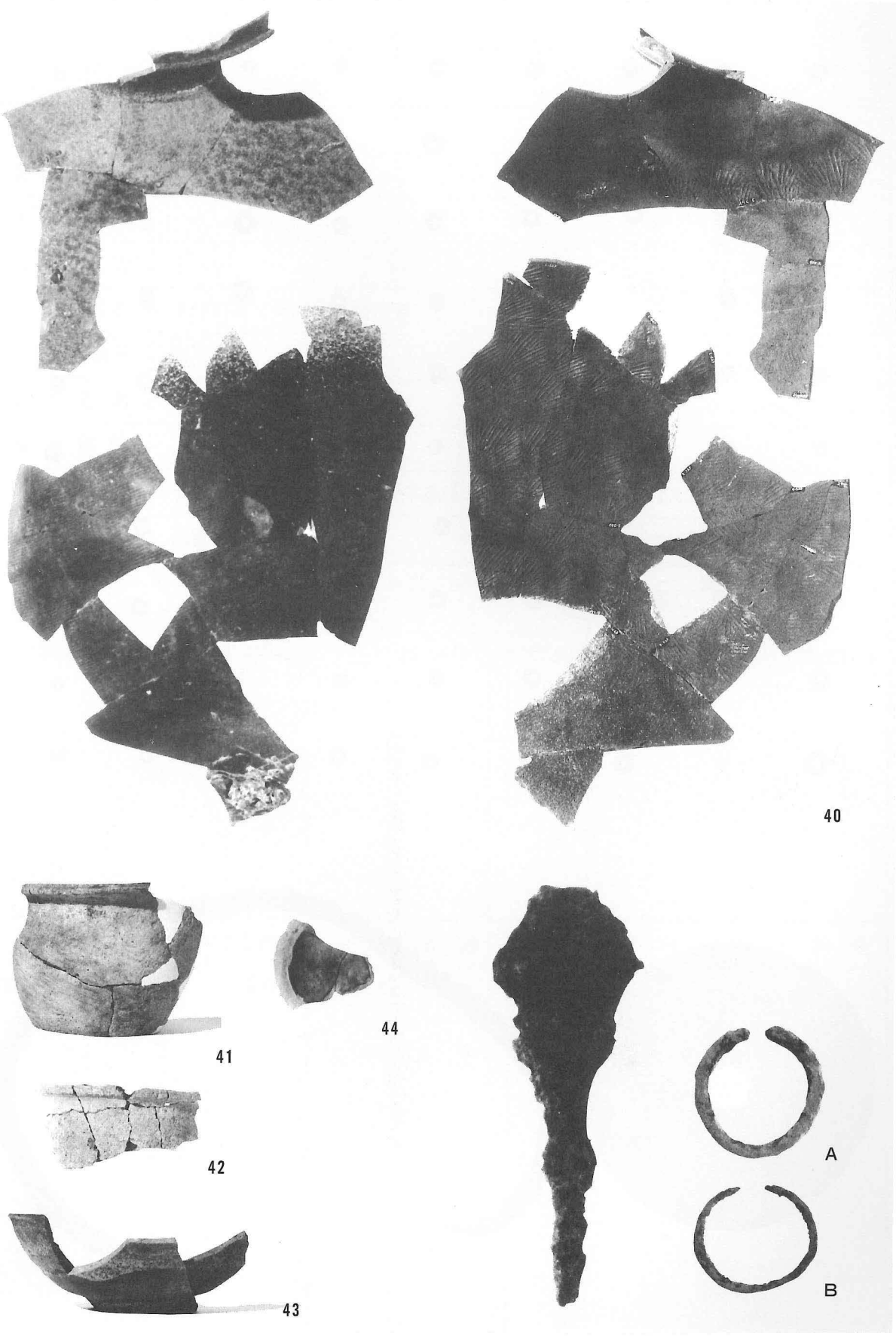
36

37

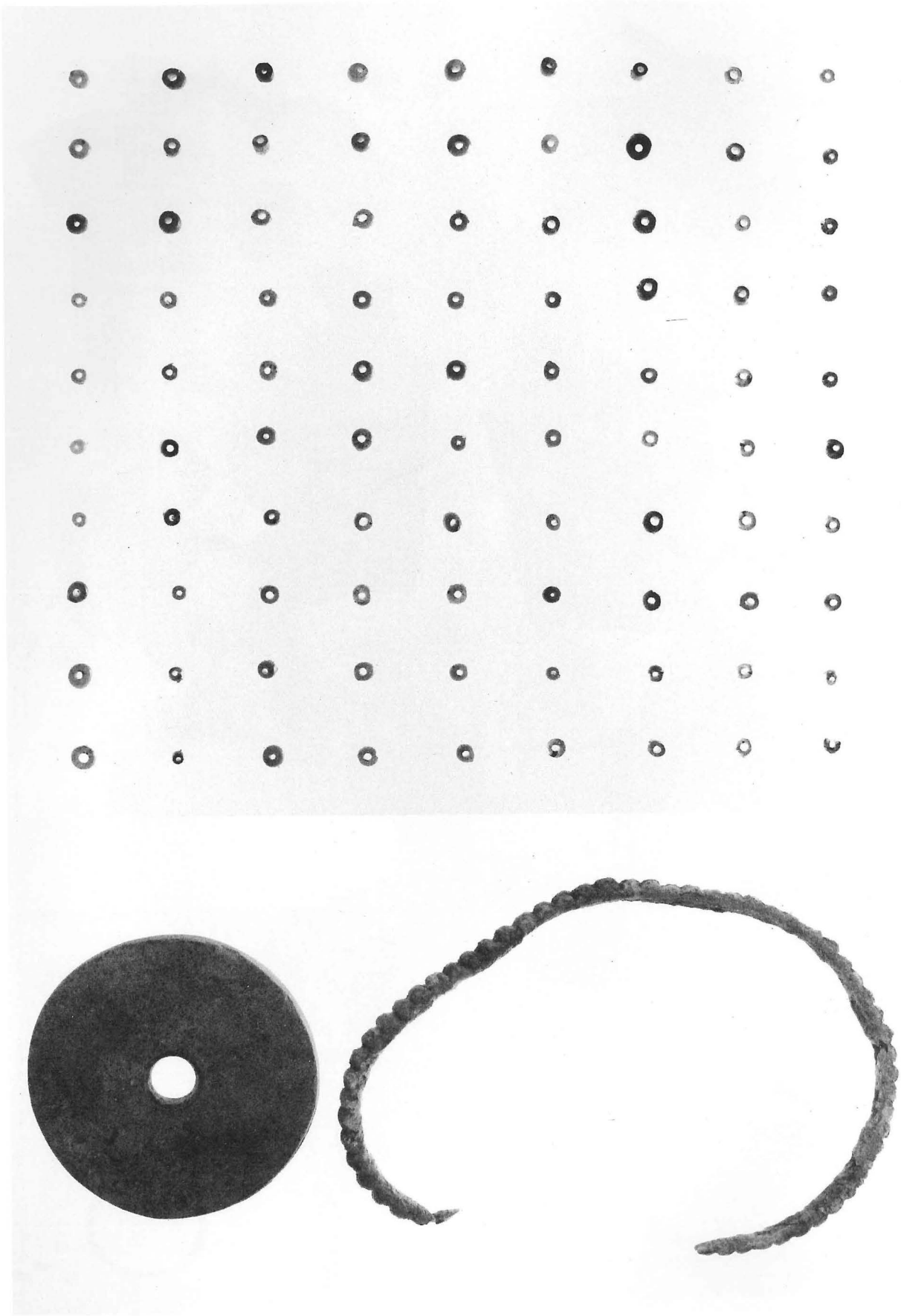
図版 5　出土遺物②



図版 6　出土遺物③



図版 7　出土遺物④



図版 8　出土遺物⑤

報告書抄録

ふりがな	いけのうらふんぼ
書名	池ノ浦墳墓
副書名	
巻次	
シリーズ名	美津島町文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編著者名	甲斐田彰，塩塚浩一
編集機関	美津島町教育委員会
所在地	〒817-03 長崎県下県郡美津島長大字雞知甲550-2　TEL 09205—4—2271
発行年月日	西暦 1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
池ノ浦墳墓（いけのうらふんぼ）	下県郡美津島町大字久須保	42442		34°18′10″	129°21′50″	19950828 ～ 19950922	60	漁港修築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池ノ浦墳墓	墳墓	古墳時代	石棺	須恵器 陶質土器 紡錘車 ガラス小玉	

美津島町文化財調査報告書第７集

池ノ浦墳墓

1996

発　行　長崎県美津島町教育委員会
長崎県下県郡美津島町大字雞知

印　刷　株式会社　昭和堂印刷